

科目名	農業と環境		学年	類型・コース	単位数
			1年		2単位
学習の目標	農業生物の育成と環境の保全についての体験的、探求的な学習を通して農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ、農業の各分野で活用する基礎的な能力と態度を育てる。				
使用教材	教科書：農業と環境（実教出版） 副教材：				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実習レポート、栽培技術の習熟度（実習の内容を理解し、適切に進めることができる）、授業の取り組みで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	農業の各分野において体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築をめざして自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	栽培の基礎学習1 ・スイートコーン、トマトの栽培法、生育調査・環境調査	○植物の栽培を通して、栽培法を理解するとともに、自然や植物を守り育てる心を培い育む。 ○栽培計画、方法を学ぶ ・播種・定植・肥培管理・農薬散布・収穫 ・生育調査（草高・草丈・生葉数・最大葉身、葉幅長・病害虫） ・環境調査（温度・湿度・地温）などを理解する。	中間考査	中間考査	レポート
	5	8					
	6	8			期末考査	期末考査	
	7	4					
2	9	8	栽培の基礎学習2 ・ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ハボタンの栽培法、生育調査・環境調査 私たちの暮らしと農業・農村 ○人間と植物・動物とのかかわり ○農業と自然・社会とのかかわり ○日本の農業・農村と食料供給 環境調査と環境保全 ○環境調査の方法 ○植生の調査 ○土壌の調査 ○水質の調査	○自然と人間、植物生産の関わりについて理解し、相互作用により生態系が維持され、食料生産が成立していることを理解する。 ○植物の生育や栽培における外部環境の必要性を知り、自然環境の保護・保全の考え方を理解する。 ○日本や住んでいる地域の農業・農村の現状や日本型農業技術の特徴や農産物の流通や食生活の変化について理解する。 ○環境問題の歴史と取り組み、今後の解決へ向けた動きを知り、考える力を養う。 ○環境調査：近隣地域における水質を理解する。 ○水質調査の方法を理解する。 ○肥料要素を知り、土壌構造を把握した上で、化学肥料と有機肥料の適切な利用方法を知る。	中間考査	中間考査	レポート
	10	8					
	11	8			期末考査	期末考査	
	12	4					
3	1	6	学習のまとめと学校農業クラブ活動 ○学校農業クラブ活動 ○プロジェクト学習	○目的と組織、活動内容を理解する。 ○プロジェクト学習：農業、自然環境に関わる課題を各自設定し、問題解決していく。（留意事項：計画→実施→反省→評価）	学年末考査	学年末考査	レポート
	2	8					
	3	2					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

科目名	総合実習		学年	類型・コース	単位数
			1	花緑科	2単位
学習の目標	栽培、管理、実験等を中心に農業の基礎的知識・技術を習得させる。実習を通して、生産物を作り出す喜びをまなぶとともに、生産性の向上を図る能力と態度を育てる。				
使用教材	教科書： 副教材：				
評価	評価法	実習手帳、知識・技術・態度、出席状況。 農業クラブ（意見発表・鑑定競技）。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	農業に関連する基礎的な技術を身に付ける。	
		b	思考・判断・表現	第一産業に携わる者として、作物を育て、採取し、生産する役割、経営する課題を発見し解決する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	課題の解決に向けた学習に取り組み、自らの状況に応じた判断を行い、自らの意思で出来るように取り組んでいる。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学 期	4	26	<ul style="list-style-type: none"> 造園、園芸デザイン、草花バイオの3部門のローテーションにより実験実習を展開する。 造園 測量、トレース 園芸装飾 フラワーアレンジメント、切り花の栽培 草花バイオ 花苗の栽培管理、染色 農業クラブ 意見発表 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の実験実習を通して基礎的な技術、知識を学び、一つ一つの作業技術の重要性を理解する。 材料、道具の名前使用方法を学ぶ。 切り花や、花壇材料となる植物の栽培技術園場の管理技術を習得する。 春まき1年草の名前栽培方法を理解する。 農業に関する自分の意見や考えをしっかりと持ち発表する。 	実習手帳・レポート・作文	実習手帳・授業態度	授業態度
	5						
	6						
	7						
2 学 期	9	28	<ul style="list-style-type: none"> 造園 造園樹木の管理（選定・刈込）ロープワーク 園芸装飾 インドアガーデン製作、リース編み 草花バイオ 培地作製、無菌播種、組織培養、秋まき1年草・秋野菜・冬野菜の栽培 農業クラブ 鑑定競技 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の管理に必要な生垣などの外形を整える、技術基礎を習得する。 作庭に必要なロープワークの習得。 インドアガーデンを製作し、観葉植物等の特性を理解するとともに、室内園芸装飾の資格取得のための技術を習得する。 組織培養の施設と機器、器具の取り扱いを習得する。 秋まき1年草の播種、鉢上げなど栽培方法を理解する。 秋野菜・冬野菜の栽培方法を理解する 日頃の学習で得た農業に関する知識・技術の成果を競い合う。 	実習手帳・レポート	実習手帳・授業態度	授業態度
	10						
	11						
	12						

3 学 期	1 2 3	16	<ul style="list-style-type: none"> ・造園 製図（透視図）、竹垣製作 ・園芸装飾 リボンワーク、花壇管理 ・草花バイオ 培養植物の肥培管理、春巻き1年草の促成栽培、色の基礎知識 	<ul style="list-style-type: none"> ・一点透視図を描く事で、高さ・奥行き・横幅の立体物の構成を学ぶ。 ・造園の基礎知識・技術を習得する。 ・装飾用リボンワーク技術の習得。 ・花壇の種類、管理方法を学ぶ。 ・温床の効果と設置の方法、促成栽培を理解する。 ・色の持つ色相、属性について学ぶ。 	実習手帳・レポート	実習手帳・授業態度	授業態度
-------------	-------------	----	--	--	-----------	-----------	------

担当者からのメッセージ（学習方法など）
農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての基礎必要な知識・技術を学ぶ。

科目名	農業と情報		学年	類型・コース	単位数
			1		2単位
学習の目標	情報および情報技術を活用するための知識と技能を習得し、社会における情報化の意義や役割を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。				
使用教材	教科書：農業と情報(実教出版) 副教材：日本語ワープロ検定試験 模擬問題集 3・4級編(日本情報処理検定協会) 情報処理技能検定試験(表計算)模擬問題集 3・4級編(日本情報処理検定協会)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、提出プリント、発表で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	情報と情報技術にかかわるシステムを理解し、それに対応できる技術を身につける。また、情報化が進む社会の特質を知り、社会と人間のかかわりについて理解している。	
		b	思考・判断・表現	課題を教科「情報」の視点で捉え、課題の発見と解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し、改善しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評点(1~10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。					

3, 年間計画

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	○情報の意義と役割 ・インターネット・SNS ・メディアリテラシー	○情報の特徴・性質を理解し、個人情報 の取り扱いや著作権に気をつけて 情報を活用できる。	定期 考査 ・ プ リ ン ト	定期 考査 ・ 小 テ ス ト	授業 フ ァ イ ル
	5	8	○文書作成 ・ワープロソフトの基本操作	○キーボードによる文字入力 ・変換等が速く正確にできる。			
	6	8	・ワープロ検定(3・4級)取得に向けた文書編集 技術の習得	○ワープロ検定の合格を目指す。			
2	7	4	○プレゼンテーション ・プレゼンテーションソフトの基本操作	○情報を相手にわかりやすく正確に 伝えることができる。	定期 考査 ・ プ リ ン ト	定期 考査 ・ 小 テ ス ト	授業 フ ァ イ ル
	9	8	・プレゼンテーションソフトの活用	○プロジェクト学習に活用できる力 をつける。			
	10	8					
	11	8					
3	12	4	○表計算ソフトの機能と基本操作 ・表計算ソフトの基本操作	○情報を正しく分析し、効率的に編 集できるようになる。	定期 考査 ・ プ リ ン ト	定期 考査 ・ 小 テ ス ト	授業 フ ァ イ ル
	1	6	・いろいろな関数の利用	○情報を視覚的にわかりやすく表 示できる。			
	2	8	・グラフの利用とその特徴・使い分け ・プログラミングの作成	○プロジェクト学習に活用できる力 をつける。			
	3	2	○スマート農業の理解	○農業分野でICT やAIなどの最先 端技術を理解する。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

2分割して実施する。ワープロ・表計算・プレゼンソフト・プログラミングを利用して、基礎的な操作の確認をしながら、実際に活用できるように反復練習をする。

科目名	生物活用		学年	類型・コース	単位数
			1年		2単位
学習の目標	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、それらの生物の特性を活用し生活の質の向上を図る能力と態度を育てる。				
使用教材	教科書：生物活用（実教出版） 副教材：				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題（スピーチ発表、実験レポート、プレゼンテーション、グループディスカッション等）、授業ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	園芸作物や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得している。	
		b	思考・判断・表現	生物活用に関する現状や課題などに関心を持ち、生物の特性を活用した活動や療法を理解するとともに生活の質を向上させる力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	生物を活用した暮らしに興味・関心を高め、よりよい社会の構築をめざして自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	(1) 生物活用の意義と役割 ・園芸作物、社会動物と人間生活 ・生物活用と対人サービス	植物のある環境や栽培、動物との暮らしが人の健康や生活の改善に活用されていることについて学ぶ。 医療・福祉・教育などいろいろな対人サービス分野における生物の活用について取り上げ、園芸作物や社会動物の特性および効用を理解する。	中間考査	中間考査	ポ ー ト
	5	8					
	6	8			期末考査	期末考査	ノ ー ト
	7	4					
2	9	8	(2) 園芸作物の栽培と活用 ・草花・野菜・ハーブの栽培と活用 ・園芸デザインとその活用 (3) 社会動物の飼育と活用 ・社会動物の飼育としつけ ・社会動物の活用 (4) 生物を活用した療法 ・園芸療法 ・動物介在療法	園芸作物の栽培・利用と園芸デザインに関する知識・技術を習得し、園芸に関する活動の精神・身体・社会的効用について理解する。 社会動物との触れ合い、飼育・しつけに関する知識と技術を習得し、動物との触れ合いや飼育がもたらす精神・身体・社会的効用について理解する。 園芸療法、動物介在療法に関する知識を習得し、その実際と効果などについて理解する。	中間考査	中間考査	グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ノ ー ト
	10	8					
	11	8			期末考査	期末考査	ノ ー ト
	12	4					
3	1	6	(5) 生物活用の実際 ・対象者の理解と交流の技法 ・交流活動 ・療法的な活動	安全な活動を行うために対象者の心身の特徴や生活状況の理解及び交流に必要な知識と技術を習得する。 対象者の発達段階や病気、障がい、ニーズに応じて活動の目標・計画の立案、活動の実際・評価法など実践的能力と態度を養成する。	学年末考査	学年末考査	ス ピ ー チ 発 表 ノ ー ト
	2	8					
	3	2					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

[花緑科]

令和 4年度	科目名 課題研究	単位数 2	学科・学年 花緑科・2年
-----------	-------------	----------	-----------------

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
使用教科書・副教材等	

2. 評価の観点

		定期考査	授業の取組	ノート提出	技術・態度	科目による評価規準
評価 観点	関心・意欲・態度		◎	◎	◎	授業中の取り組みの様子、提出状況を特に重視する。
	思考・判断・表現		○		○	
	技能		○	○	◎	
	知識・理解			○		

3. 年間計画

月	週	相当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	24	○課題の設定と問題解決学習 造園（造園技術、造園材料、造園計画）、園芸装飾（切り花栽培、園芸装飾）草花バイオ（草花、植物組織培養）上記より1部門を選択し、継続的な学習を行う。 1. 設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てる。 2. 計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験、作品製作に取り組む。 3. 結果の分析やまとめ方及び報告書の作成 (専攻班プロジェクト) ・課題の設定 ・計画の立案 ・評価 (個人及びグループプロジェクト) ・課題の設定 ・計画の立案 ・評価	○課題を設定し、問題解決学習を行うことができる。 ○設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てることができる。 ○計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験、製作に取り組み、これらを通じて、科学性、主体性、協調性及び実行力を身につける。	実習・実験 講義・演習
5	4				
6	4				
7	1				
9	4				
10	4				
11	4				
12	1				
1	3	20	○次年度の計画とプロジェクト研究への取り組み ・1、2学期に学習した内容を踏まえて、農業クラブのプロジェクト研究とも連動させ、課題設定、計画立案を行う。 ・専攻班（グループ、個人）における研究の課題の設定と検討	○課題を設定し、問題解決学習を行うことができる。 ○設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てることができる。 ○3学年での学習内容を決定する。	実習・実験 講義・演習
2	4				
3	1				

令和 4年度	科目名 総合実習	単位数 2(1)	学科・学年 花緑科・2年
-----------	-------------	-------------	-----------------

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	造園、園芸装飾、草花バイオに関する実習・実験を通して、農業の基礎知識・技術を具体的に習得をさせる。また実習を通して、生産物を作り出す喜びを学ぶとともに、生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	

2. 評価の観点

	定期考査	授業の取組	実習手帳提出	技術・態度	科目による評価規準
評価 観点		◎	◎	◎	【評価項目・素点の配分】 知識・技術：30点 日誌：30点態度：40点 計：100点
関心・意欲・態度		○		○	
思考・判断・表現		○		○	
技能		○	○	◎	
知識・理解			○		

3. 年間計画

月	週	相当 時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	14	○ 造園、園芸装飾、草花・バイオの3部門より1部門を選択し実験、実習を展開する。	・実験、実習を通して基礎的な技術、知識を習得する。	春季休業
5	4				
6	4	12	○造園 造園技術 造園材料 造園計画	・剪定や刈り込み、除草作業時に器具を正しく使用できる	実習・実験
7	1		○園芸装飾 切り花の栽培 装飾用小物の製作	・草花の栽培、樹木繁殖の基礎を理解する。 ・描画の基礎を理解する。 ・平板測定の器具名称と使用方法を理解する。 ・切り花や、花壇材料となる植物の栽培技術花壇等の鑑賞用ほ場の管理技術を習得する	演習
			○草花・バイオ 植物組織培養 草花栽培 ◇技能検定受検	・草花栽培、植物組織培養の基本的な技術を習得する。 ・園芸装飾技能検定、造園技術検定合格のための基礎的な知識技術を身につける。 ・自分の考えを書き、それを発表できる。 ・学科の学習内容に関連した農業資材名とその利用方法について理解する。	
		8			夏期休業 実習
9	4	26	○造園 造園技術 造園材料 造園計画	・樹木の剪定で器具を正しく使用できる。 ・テストピースの製作でコンクリートの性質を理解できる。 ・透視図の書き方を理解する	実習・実験
10	4			・平板による細部測量ができる。 ・商品となるフラワーデザイン作品を製作できる。	
11	4		○園芸装飾 花壇の管理、フラワーデザイン	・草花栽培、植物組織培養について基本的な知識・技術を身につける。	
12	1		○草花・バイオ 植物組織培養 草花栽培		
		4			冬期休業 実習
1	3	12	○各専攻班共通 1. 栽培植物の管理 2. 学習のまとめ作業 3. 次年度の計画 栽培計画 プロジェクト研究	・1年間の学習内容についてまとめ整理し、次年度の課題を見つける。 ・3学年での学習内容を決定する。	実習・実験
2	4				
3	1				

※時間外総合実習を繁忙期に適切に行う

令和 4年度	科目名 農業情報処理	単位数 2	学科・学年 2年	
-----------	---------------	----------	-------------	--

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	情報および情報技術を活用するための知識と技能を習得し、社会における情報化の意義や役割を理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	農業情報処理（実教出版） 日本語ワープロ検定試験 模擬問題集 3・4級編（日本情報処理検定協会） 情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集 3・4級編（日本情報処理検定協会）

2, 評価の観点

		授業態度	提出物	提出内容	技術習得	科目による評価規準
評価 観点	関心・意欲・態度	◎	◎			・作成提出された演習課題と態度を総合的に評価する。
	思考・判断・表現			○	◎	
	技能			○	◎	
	知識・理解			◎	○	

3, 年間計画

月	週	配 当 単 位	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	○情報の意義と役割 ・インターネット・SNS ・メディアリテラシー	○情報の特徴・性質を理解し、個人情報の取り扱いや著作権に気をつけて情報を活用できるようにする。	講義と演習
5	4	8	○文書作成 ・ワープロソフトの基本操作 ・ワープロ検定（3・4級）取得に向けた文書編集技術の習得	○キーボードによる文字入力 ・変換等が速く正確にできる。	講義と演習
6	4	8		○ワープロ検定の合格を目指す。	
7	1	2			
9	4	8	○プレゼンテーション ・プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プレゼンテーションソフトの活用	○情報を相手にわかりやすく正確に伝えることができる。	講義と演習
10	4	8		○プロジェクト学習に活用できる力をつける。	
11	4	8			
12	1	2	○表計算ソフトの機能と基本操作 ・表計算ソフトの基本操作 ・いろいろな関数の利用 ・グラフの利用とその特徴・使い分け ・プログラミングの作成	○情報を正しく分析し、効率的に編集できるようになる。	講義と演習
1	3	6		○情報を視覚的にわかりやすく表示できる。 ○プロジェクト学習に活用できる力をつける。	
2	4	8			
3	1	2	○スマート農業の理解	○農業分野でICTやAIなどの最先端技術を理解する。	講義

令和 4年度	科目名 グリーンライフ	単位数 2	学科・学年 花緑科・2年
-----------	----------------	----------	-----------------

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	・交流や余暇活動の展開に必要な知識と技術を習得させる。 ・農業や農村の持つ多面的な機能と対人サービスの特性を理解させるとともに、交流、余暇活動を導入した経営の改善を図る能力と態度を養う。
使用教科書・副教材等	グリーンライフ (実教出版)

2, 評価の観点

評価項目	考查	授業の取組	提出物	出席	科目による評価規準
評価観点 関心・意欲・態度		◎	◎	○	・定期考查 ・授業態度 ・ノート整理と提出
思考・判断・表現	○	○			
技能		◎			
知識・理解	◎	○	◎		

3, 年間計画

月	週	相当 時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	○グリーンライフの世界 ・人間生活とグリーンライフ	○農業、農村体験を活かした対人サービスの特性を理解する。	講義
5	4	8	・「グリーンライフ」と交流と余暇活動型経営 ・グリーンライフの学びの世界 ○伝統的植物の栽培 (名古屋式朝顔)	○緑の空間 (自然) のもつ機能や魅力を発見し関心を持たせる。 播種・定植・整枝作業ができる	講義 実習・講義
6	4	8	○農業・農村の機能の発見と活用 ・身近な農村との関わりを調査する。 ・自然環境と農業、農村の発見活用	○農業農村が持つ機能の活用に関する知識と技術を習得する。 ○本来の自然と人間の手によって管理されている自然の違いを理解する。	講義
7	1	2	○伝統的植物の鑑賞 (名古屋式朝顔) ○伝統的植物の栽培 (大菊福助作り) ・農村文化の発見と活用	開花後の管理・鑑賞 挿し芽・鉢あげ・定植 ○農産物加工の目的、留意点を理解する	演習 期末考查 実習・講義
9	4	8	・農業農村の機能の総合的な活用 ○伝統的植物の栽培 (大菊福助作り)	○農業農村の機能、活用方法を理解、さらなる可能性を模索する。 肥培管理・整枝ができる	講義
10	4	8	○グリーンツーリズム ・グリーンツーリズムの特徴とあゆみ	○グリーンツーリズムの特徴とあゆみ、背景を理解する。	演習 まとめ作業 中間考查
11	4	8	○伝統的植物の鑑賞 (大菊福助作り) ○市民農園 ・市民農園の特徴とあゆみ	開花後の管理・鑑賞 ○グリーンツーリズムの取り組みとその特徴、課題を理解する ○市民農園の特徴とあゆみについて理解させる。また、滋賀県の市民農園について調査し、理解する。	実習・講義 講義 実習
12	1	2		○観光農園、直売所のタイプとその特徴やあゆみについて理解させる。 ○滋賀県の特産品・伝統野菜・ブランド化戦略を理解する。	期末考查
1	3	6	○観光農園・直売所 ・観光農園、直売所のタイプとその特徴、あゆみ・地域農産物の発見と栽培加工		講義
2	4	8	○滋賀県の特産品・伝統野菜・ブランド化戦略、GAPについて		演習
3	1	2	本校産の米の食味鑑定	○GAPの取り組みを理解する ○本校産の米の食味を行い、品種による味の違いをわかる。	講義 学年末考查
			※適時、本校敷地内で季節の植物のスケッチを行う。		

令和 4年度	科目名 草花	単位数	学科・学年	
		2	花緑科・2年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	○草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 ○2年生までの草花栽培についての基本的事項の習得を基に、草花栽培の実際について各論形式により、理解を深める。
使用教科書・副教材等	草花（実教出版）

2, 評価の観点

	評価項目	考査	授業の取組	提出物	出席	科目による評価規準
評価 観点	関心・意欲・態度		◎	◎	○	・定期考査 ・授業態度 ・ノート整理と提出
	思考・判断・表現	○	○			
	技能		◎			
	知識・理解	◎	○	◎		

3, 年間計画

月	週	配当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	第2章 花きの特性と栽培・利用 花きの繁殖方法	・種まきの基本的な方法について理解する。 ・発芽の仕組みや発芽条件について理解する	講義
5	4	8	種子繁殖		
6	4	8	栄養繁殖 ・株分け ・挿し木 ・取り木	・株分けや挿し木、取り木の基本方法について理解する。 ・家庭で実施した場合の失敗について、原因や対処法が自分で考えられる。 ・土壌の役割について理解する	講義 小テスト 講義
7	1	2	土壌の性質と施肥		
9	4	8	施設の種類・構造と利用	・施設の種類と役割について理解する	講義 期末考査
10	4	8	花き栽培の実際 鉢物 鉢花類（シクラメン）	・鉢物全般の特性や栽培管理について理解する	講義・観察
11	4	8	ラン類（シンビジウム）	・シンビジウムの管理方法、株分け等の繁殖方法について理解する	講義・観察 中間考査
12	1	2	切り花・球根類・花木 球根類（チューリップ・ユリ）	・球根の仕組みから植え付け、球根の保存方法について理解する	講義 期末考査
1	3	6	花木（バラ）	・バラの栽培の基本について理解する	講義
2	4	8	第4章花き生産の経営 花き生産の特徴と経営への導入 苗の生産（パンジー）	・パンジーを中心とした花壇苗の栽培について理解する	講義 学年末考査

令和 4年度	科目名 園芸デザイン	単位数 2	学科・学年 花緑・2年	
-----------	---------------	----------	----------------	--

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	フラワーアレンジメントに必要な基礎的な知識と技術を習得する。色について学び、季節や行事などによってアレンジメントのデザインが変化するのだと理解する。ガーデニングの歴史や国によつての違いを知り日本の庭園の様式について学ぶ。
使用教科書・副教材等	花と遊ぶ・花と学ぶ フラワーデザイン入門

2, 評価の観点

		定期考査	授業の取組	ノート提出	課題提出	科目による評価規準
評価 観点	関心・意欲・態度	○	◎	○	○	・定期考査 ・授業態度 ・ノート整理と提出
	思考・判断・表現	◎	○	◎	○	
	技能			○	◎	
	知識・理解	◎	○	◎	○	

3, 年間計画

月	週	相当 時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	○フラワーデザイン入門より ・フラワーアレンジメントの基礎 ・フラワーアレンジメントに使われる花材の役割	○アレンジメントのデザインの基礎知識を習得する。	講義
5	4	8			
6	4	8	・フラワーアレンジメントの基本の形11種 ・ドーム型 ・トライアングル…等 ○色の基礎知識		期末考査 講義
7	1	2	・カラーコーディネートプラン ・季節による色の組み合わせ ・イベントによる色の組み合わせ	○アレンジメントの色やイベントに合った色の組み合わせを学ぶ	講義
9	4	8	○花の扱い方 基礎知識 ・水揚げの方法 ・水揚げが難しい花材の処理方法	○アレンジメントを行うときの花の扱い方を学ぶ	中間考査 講義
10	4	8	・吸水性フォームについて ・吸水性フォームの高さと花のさし方について	○フォームの高さによってアレンジのデザインが変わることを理解する	期末考査 講義
11	4	8	○ブーケについての基礎知識 ・ブーケの形 ・ブーケの作り方 ・花束の作り方 ・花束の形 ・花束のラッピングの方法	○ブーケのいろいろな形について学ぶ	講義・演習
12	1	2			
1	3	6	○ガーデニングの歴史について ・日本のガーデニングの歴史 ・世界のガーデニングの歴史	○ガーデニングの事例から最近の事情を知る。	講義
2	4	8		○現地調査により、施工場所の環境条件をつかみ、ガーデンデザインに取り組む。	講義
3	1	2	・卒業生用コサージュ作成実習		学年末考査

令和 4年度	科目名 造園技術	単位数 2	学科・学年 花緑科2年	
-----------	-------------	----------	----------------	--

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	造園の施工管理に必要な、主として環境創造と素材生産に関する分野の知識と技術を習得させ、造園技術の特質や役割などを理解させるとともに、造園の現状や今日的な課題について関心を持たせ、身近な造園空間において体験的、継続的な施工、管理を通して、社会生活の様々な場面における応用力と実践力を養わせる。
使用教科書・副教材等	造園技術（電機大）

2, 評価の観点

		定期考査	授業の取りくみ	ノート提出	課題提出	科目による評価規準
評価 観点	関心、意欲、態度		◎	◎	◎	授業中の態度 ノート提出等
	思考、判断、表現	○	○			
	技能		◎		○	
	知識、理解	◎	○	○	○	

3, 年間計画

月	週	日 曜	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	第1章 造園技術の特色と役割 造園の定義	造園の定義、扱う空間、材料等について理解する。	講義
5	4	8	第1節 造園技術の特色 第1 造園技術の種類	①日本庭園の伝統 様々な庭園様式について造園史とともに分類、理解する。	講義
6	4	8	第2 造園技術を学ぶ	②西欧の造園の影響 西欧の文化や歴史を学習し、どのように日本に影響を与えたか理解する。	講義
7	1	2	第2節 造園施工と管理の役割 第1 造園施工と管理の現状	③現代庭園の展開 ①施工後の管理 現代の造園業は清掃、除草等の施工後の管理といった日常の維持管理が主要であること、また植栽を整枝、剪定する目的や方法、切除するべき忌み枝について理解する。	講義
9	4	8	第2 造園施工と管理の課題		
10	4	8	第2章 造園植栽施工 第1節 植栽とデザイン 第1 配植のデザイン	①樹木の持つ機能 ②配植の方法、単位	講義 講義
11	4	8	第2 植栽の方法	③日本庭園における役木の配植 役木の手法、効果を分類し、理解する。	講義
12	1	2		④植栽の移植方法 根回し、掘り取り、植え付けといった順序を追って学習することで、どのように植栽施工が行われるか理解する。	講義
1	3	6			
2	4	8	第3章 造園土木施工 第5節庭園施設工	⑤移植後の保護、養生 ①石の施工 庭園内における、石の組み方や選び方、部分名称について理解する。	講義 講義
3	1	2	日本全国の日本庭園について	②各種の石造物 飛石、延段、灯籠、蹲踞、石積みといった石造物の種類や施工に関して分類、理解する。	講義
				調べ学習を通して庭園の特徴を理解する	講義

令和 4年度	科目名 課題研究	単位数	学科・学年	
		2	花緑科・3年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	1 学年・2 学年で学習体験してきた基礎知識・技術を生かし、自らが課題を設定し研究・実験に取り組み課題解決していく。その中で将来、農業関連のスペシャリストとして必要な基礎知識と技術を習得する。
使用教科書・副教材等	

2, 評価の観点

		定期考査	授業の取組	ノート提出	技術・態度	科目による評価基準
評価 観点	関心・意欲・態度		◎	◎	◎	授業中の取り組みの様子、提出状況を特に重視する。
	思考・判断・表現		○		○	
	技能		○		◎	
	知識・理解			○		

3, 年間計画

月	週	相当 時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	24	○課題の設定と問題解決学習	○課題を設定し、問題解決学習を行うことができる。	実習・実験 講義・演習
5	4		造園（造園技術,造園材料、造園計画）	○設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てることができる。	
6	4		園芸装飾（植物栽培と装飾） 園芸バイオ（植物培養と草花栽培と流通）		
7	1		上記より1部門を選択し、継続的な学習を行う。 1. 設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てる。 2. 計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験、作品製作に取り組む。 3. 結果の分析やまとめ方、プロジェクトのプレゼンテーション (専攻班プロジェクト) ・課題の設定 ・計画の立案 ・評価 (個人及びグループプロジェクト) ・課題の設定 ・計画の立案 ・評価	○計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験、製作に取り組み、これらを通じて、科学性、主体性、協調性及び実行力を身につける。 ○効果的なプレゼンテーションの方法・技術を習得する。	
9	4	26	○1学期から継続した学習（まとめ）	○課題を設定し、問題解決学習を行うことができる。	実習・実験 講義・演習
10	4			○設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てることができる。	
11	4				
12	1			○計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験、製作に取り組み、これらを通じて、科学性、主体性、協調性及び実行力を身につける。	
1	3	6	○課題研究結果をまとめ ・卒業論文、課題研究結果を、論文としてまとめる。 ・卒業制作 園芸装飾品を製作し、製作過程をレポートにまとめ提出する。 ・学習成果をまとめ、自己評価を行う。	○課題研究の結果をまとめ、卒業論文・卒業制作の作成を行うことができる。 ○課題解決学習の成果をまとめ、自己評価を行うことができる。	実習・実験 講義・演習

令和 4年度	科目名 総合実習	単位数	学科・学年	
		2(1)	花緑科・3年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	栽培、管理、実験等を中心に農業の基礎知識・技術を具体的に習得をさせる。また実習を通して、生産物を作り出す喜びを学ぶとともに、生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	

2, 評価の観点

評価観点	定期考査	授業の取組	実習手帳提出	技術・態度	科目による評価規準
関心・意欲・態度		◎	◎	◎	【評価項目・素点の配分】 知識・技術：30点 日誌：30点態度：40点 計：100点
思考・判断・表現		○		○	
技能		○		◎	
知識・理解			○		

3, 年間計画

月	週	相当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	14	○造園、園芸装飾、草花バイオの3部門より1部門を選択し継続した学習を行う。 ○校内販売所での販売(通年)	・実験、実習を通して基礎的な技術、知識を習得する。	春季休業 実習 実習・実験
5	4			・販売所の運営、接客ができる。	
6	4	10	○専攻班共通 1. 植物栽培、商品製作 園芸デザイン：草花を用いた装飾と草花栽培 草花バイオ：植物組織培養と草花栽培、販売 ○造園 造園技術、造園材料、造園計画測量 2. 課題を設定し、プロジェクト学習を行う。 ・設定した課題の分析と検討を行い計画を立てる。 ・計画に基づいて、合理的に調査、研究、実験に取り組む。 ・課題解決に必要な日数、経費、施設、設備などの条件の検討を行い、研究の計画を立て、課題の解決方法を考察する。 ・結果の分析やまとめ方及び報告書の作成する。 3. プロジェクト発表 4. 意見発表・鑑定競技	○課題を設定し、問題解決学習を行うことができる。 ○設定した課題の分析と検討を行い、計画を立てることができる。 ○計画に基づいて、調査、研究、実験に取り組み、これらを通じて、科学性、主体性、協調性及び実行力を身につける。 ○各部門ごとに専門的な技術を身につける。	演習
7	1			○プロジェクト発表会により、各部門の取り組みについて理解する ○自分の考えをはっきりと伝えられる。 ○学科の学習内容に関連した農業資材名とその利用方法について理解する。	
		8			夏期休業実習 実習・実験
9	4	26	○専攻班共通 1. 文化祭での学科展示及び販売 2. 各種販売会に向けての商品製作。 3. 各種交流活動	○学科展示、販売により、各部門の取り組みについて理解する。	夏期休業実習 実習・実験
10	4			○付加価値のある商品を製作し、販売する。	
11	4			○受講生への指導を通じて、日頃の学習成果を発揮するとともに、表現する力を身につける。	
12	1			○まとめ活動を通じて、科学的な考え方を身につける。	
1	3	6	○各専攻班共通 1. 研究のまとめ 学習成果をまとめ、論文作成、または作品製作を行う。	○まとめ活動を通じて、科学的な考え方を身につける。	実習・実験 講義・演習

※時間外総合実習については各専攻班の繁忙期考慮にいれ、適切に担当していく。

令和 4年度	科目名 植物バイオテクノロジー	単位数	学科・学年	
		2	花緑科・3年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 植物バイオテクノロジーが人間社会に果たしている役割を理解する。 植物バイオテクノロジーの基礎的な知識・技術を身につける。 植物体の特性、バイオテクノロジーの特質を理解する。
使用教科書・副教材等	植物バイオテクノロジー (実教)

2, 評価の観点

評価項目	考查	授業態度	提出物	出席	科目による評価規準
関心・意欲・態度	○	◎	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 定期考查 授業態度 ノート整理と提出
思考・判断・表現	◎	○	◎		
技能	○	◎	◎		
知識・理解	◎	○	◎		

3, 年間計画

月	週	配時 間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	第1章生きものに学ぶバイオテクノロジー		講義
5	4	8	1. バイオテクノロジーの世界 2. 産業社会とバイオテクノロジー	・バイオテクノロジーの意味を理解するとともに、利用の全体像がわかる。	
6	4	8	第2章植物バイオテクノロジーの原理		講義 観察 期末考查
7	1	2	1. 細胞の表情とはたらきに学ぶ 2. 受精のしくみとはたらきに学ぶ ※季節に応じて、校内の植物のスケッチ観察を行う。	・植物の特徴を理解し、植物の多様性を学ぶ。	
9	4	8	第3章植物組織培養の基礎 1. 植物組織培養の体系とポイント 2. 施設・設備と機器・器具 ※機器や器具等の使い方と実践	・植物組織培養とその目的を理解する。 ・機器・器具の取り扱い方を習得する。	講義 実験
10	4	8	3. 培地の構成要素と調製 4. 無菌操作の実際 5. 無菌操作・培養苗生産に挑戦しよう	・培地成分の重要性を理解し、培地の調整方法を学ぶ。 ・植物培養の手順を理解する。	講義 実験 中間考查 期末考查
11	4	8	第4章植物バイオテクノロジーの実際		講義 実験
12	1	2	1. よい苗を大量につくる (1) 無病苗作出技術 (2) 大量増殖技術 (3) 地域の希少植物・品種の保全	・ランの無菌は種や茎頂培養、組織片の培養など培養の目的や方法を学ぶ。	
1	3	6	第5章バイオマスの利用 1. バイオマスとはなんだろう 2. バイオマスの利用	・バイオマスとは何かを理解する。 ・バイオマスの役割と利用について学ぶ。	講義 学年末考查

令和 4年度	科目名 園芸ビジネス	単位数	学科・学年	
		2	花緑科 3年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の6次産業化や農産物の流通、販売活動について理解を深める ・消費者ニーズに合致した農産物の栽培や直売所の運営及び経営ができる能力と態度を身につける。
使用教科書・副教材等	

2, 評価の観点

		定期考査	授業の取り組み	提出物	出席	科目による評価規準
評価 観点	関心・意欲・態度	○	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取組の様子 ・提出物の提出状況
	思考・判断・表現	○	○	○		
	技能		◎	○		
	知識・理解	◎	○	◎		

3, 年間計画

月	週	配当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	農業の6次産業化 滋賀県の農業について	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の6次産業化を理解する 	講義
5	4	8	農業経営の形態について ・家族経営・農業生産法人など	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物を顧客に直接販売している方式を理解する ・滋賀の農業の現状を知る 	講義 期末考査
6	4	8	農産物の販売方法のいろいろ	<ul style="list-style-type: none"> ・市、庭先販売、施設販売、契約販売、宅配販売、出張販売、インショップ、観光農園・体験農園) 	
7	1	2	農業のビジネス化	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の農業ビジネスに必要な課題をみつけ、学ぶ 	講義 ICT活用
9	4	8	農業のビジネス化に必要な手法	<ul style="list-style-type: none"> ・農業にまつわる資格について知る 	中間考査
10	4	8	農業ビジネスに役立つ資格について	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの資格について具体的に学ぶ 	講義 ICT活用 期末考査
11	4	8	日本の農業経済の歴史 GAP認証	<ul style="list-style-type: none"> ・農業・園芸の歴史を学ぶ ・GAPを理解する 	講義 ICT活用
12	1	2	農地法について 外国との農業貿易について	<ul style="list-style-type: none"> ・農地法・食糧管理制度などの法律を知る ・外国との農業貿易について 	講義 ICT活用
1	3	6	現代の農業の課題について (農業の工業化・外国人技能実習生の問題・労働基準法・失業保険について)	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所における経営戦略を理解する ・世界で行われているスマート農業について学ぶ 	学年末考査
2	4	8		<ul style="list-style-type: none"> ・「農業女子」「企業の農業参入」 ・農業生産法人について学ぶ ・「外国人技能実習制度」とその問題について学ぶ ・就職直前の生徒にとって、最後に学ぶ「働く」ときに知っておくべき法律を学ぶ 	
3	1	2			

令和 4年度	科目名 造園技術	単位数 2	学科・学年 花緑科 3年	
-----------	-------------	----------	-----------------	--

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	造園の施工方法や技術を習得すると共に庭園管理の知識と技術を習得する。又、コンクリートの施工技術、植栽、花壇、芝生の造成工事、公園の緑地施設工について学習する。
使用教科書・副教材等	造園技術（電機大）

2. 評価の観点

		定期考査	授業の取り組み	ノート提出	課題提出	科目による評価規準
評価 観点	関心、意欲、態度		◎	◎	◎	・ 授業中の態度 ・ ノート等の提出物を重視する。
	思考、判断、表現	○	○			
	技能		◎		○	
	知識、理解	◎	○	○	○	

3. 年間計画

月	週	日	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	第4章 造園土木施工 第1節 敷地の造成と土壌改良	土壌の状態や土壌改良剤について理解させる。	
5	4	8	第1 敷地の調査と造成計画 1、敷地の調査		
6	4	8	2、造園の目的 3、造成計画		
			第2 切土と盛土の施工方法 第3 敷地の造成と植栽土壌 第4 植栽基盤の改良	切土、盛土の計算ができる。	施工機械の 運転操作実習
7	1	2	第2節 コンクリート工 第1 コンクリートの特性 第2 コンクリートの配合	コンクリートの配合が理解できる	
			1、水セメント比 2、配合の表し方 第3 コンクリートの施工	コンクリートの施工ができる。	スランプ試験の実習
9	4	8	1、練混ぜ 2、運搬 3、打込み		
			第4 鉄筋コンクリート工 第3節 給排水工	給排水工事ができる。	ブロック積み実習
10	4	8	第1、植物材料へのかん水 第2、給水工 第3、排水工 第4、便益施設工		
11	4	8	1、水飲み場 2、便所 第5 水景施設工	各種施設の特徴や施工を理解する。	
12	1	2	1、池泉工 2、噴水		池泉工事実習
1	3	6	第4節 造園施設工 第1、園路工 第2、公園施設工	公園における施設の役割や規格を理解する。	
			1、運動施設工 2、運動施設の規格 3、遊戯施設工 4、休養施設工 5、修景施設工 6、管理施設工		
2	4	8	第3章 造園植栽 第1節 植栽とデザイン	植栽方法とデザインについて学習を深める。	
3	1	2	第1、配植のデザイン 3、樹木の表裏と立入れ 第2節 芝生、花壇等の造成	芝生の施工ができる。	芝張り実習
			4、芝生の造成手順 5、芝生の養生 第6章 合理的な施工と管理 第1節 工程管理 第2節 品質管理		
			第1節 植物の管理 第1、造園樹木の管理	樹木の剪定ができる。	剪定実習

令和 4年度	科目名 環境緑化材料(選)	単位数 2	学科・学年 花緑科 3学年
-----------	------------------	----------	------------------

1. 学習の到達目標

学習の到達目標	環境緑化のための植物の育成や造園空間の構成に使用する材料について必要な知識と技術を習得させ、環境緑化材料の特性を理解させるとともに、材料を適切に取り扱い、活用する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	環境緑化材料 (文部科学省)

2. 評価の観点

	定期考査	授業態度	ノート提出	課題提出	科目による評価規準
評価観点		◎	◎	◎	授業中の取り組みの状況、提出物の状況を特に重視する。
関心・意欲・態度		◎	◎	◎	
思考・判断・表現	○	○			
技能			○		
知識・理解	◎	○	○	○	

3. 年間計画

月	週	単 元	学習項目	学習到達目標	学習の方法
4	3	6	○緑化材料の特性と選定 ・緑化材料の特性 " の種類 " の規格 ○緑化材料の流通と選定 ・緑化材料の生産と流通 ・緑化材料の選定	・緑化材料の特性を理解させる。 ・種類を理解させる。 " " ・流通について理解させる。	座学 座学
5	4	8	○造園緑化材料 1節 植物材料 ・植生と植物材料 ・植生と環境 ・植生調査 2節 造園樹木の分類 ・様々な分類方法	・植物材料の分類を学習させる。 ・自然の植生を学習させる。 ・植物材料の分類を学習させる。	座学 ビデオ学習 樹木観察
6	4	8	・造園樹木の特性 ・年間成長と季節現象 ・造園樹木の規格 ・造園樹木の繁殖と育苗 ・様々な繁殖方法について (1) 挿し木繁殖 (2) 実生繁殖 ・造園樹木の育苗と管理	・日本の植物、自然の植生を理解させる。 ・基本的な挿し木繁殖を理解させる。 ・実生繁殖を理解させる。 ・樹木の仕立てや管理について理解をさせる。	座学 期末考査 実習 実習
7	1	2	3節 造園樹木の仕立て 植木の生産と流通		座学
9	4	2 6	○造園樹木の種類 ・針葉樹 ・常緑広葉樹 ・落葉広葉樹	・各種造園樹木の特性について理解させる。 また、基本的な樹木を覚えさせる。(樹木鑑定)	座学 座学
10	4	4 2 2	・特殊樹木、タケおよびササ ・地被植物について ・日本芝と西洋芝	・芝の特性を理解させる。 ・校内の地被植物の調査	中間考査 実習・観察 座学
11	4	2 2 4	○花壇材料(草花) ・各種草花材料について ・ハーブの種類について ○岩石材料 ・岩石の分類、種類と特徴 ・自然石材 庭石の種類や特性について ・加工石材	・基本的な花壇材料としての草花やハーブの特性を理解させる。 ・造園用材料としての石材について、特性を理解させる。	座学 座学
12	1	2	○その他の材料 ・木材、竹材、コンクリート製品など	・その他の造園材料についてその種類や特性を理解させる。	期末考査
1	3	2 4	・コンクリート平板製作 ・金属材料 ・窯製品(れんが・瓦・土管等) ・その他の材料(プラスチック・塗料・造園特殊材 等)	・コンクリート製造により、その特性を理解させる。	実験、実習 座学 学年末考査

令和 4年度	科目名 造園計画	単位数	学科・学年	
		2	花緑科・3学年	

1, 学習の到達目標

学習の到達目標	住宅庭園及び街区公園の計画・設計についての学習および製図実習を通じて、自ら庭園を設計し正確で美しい図面を描く技術を習得し、造園空間を創造できる実践的な力を身につける。また、身近な環境の観察などを通し、緑地環境について自ら考えることのできる力を習得する。
使用教科書・副教材等	造園計画（海文堂）

2, 評価の観点

評価観		定期考査	授業の取り組み	ノート提出	図面提出	科目による評価規準
		関心・意欲・態度		◎	○	
思考・判断・表現	○	○		○		
技能		◎		◎		
知識・理解	◎	○	○	○		

3, 年間計画

月	週	配当時間	学習項目	学習到達目標	学習の方法
通年		14	○製図実習 ・住宅庭園設計製図 ・街区公園設計製図	・自ら庭園を設計し、平面図、透視図、鳥瞰図を描くことができる。	実技演習
4	3	6	○造園製図と造園デザインの基礎 ・造園製図の基礎	各種透視図の描き方を習得する。	講義
5	4	8		・各種製図用具を必要に応じ適切に使用できるようになる。	講義 期末考査
6	4	8	・造園デザインの基礎	・美的構成のための原理を生かした庭園美化の手法を習得する。	講義
7	1	2		・必要に応じた調査および、目的に応じた庭園の設計、製図ができる。	講義
9	4	8	○庭園の計画・設計 ・住宅庭園の計画・設計の手順	・都市緑地の現状について理解する。	講義 中間考査 講義
10	4	8	・住宅庭園の機能と環境条件	・緑地設計の際の地域計画の重要性を理解する。	講義 期末考査
11	4	8	・住宅庭園の構成	・都市緑地の計画、設計の流れを理解する。	講義 学年末考査
12	1	2	・都市緑地	・緑地の保全と利用の意義を理解する。	
1	3	6	・農村緑地	・自然公園の意義と必要性を理解する。	
2	4	8	・自然公園	・環境に関する国際協力の必要性を理解する。	
3	1	2			